

聖書日課 『からし種』 2025.8.24~8.31

<p>8月24日 (日) I テモテ 3章</p>	<p>「神の家とは、真理の柱であり土台である生ける神の教会です」(15節)。なんと大胆な言葉だろうか。多くの欠けをもった人々の集まりである教会を「神の家」と呼ぶとは。パウロは人と人との間に働く「生ける神」を見ている。私たちがお互いの間に「真理の柱であり土台である神」を見ていく時、さまざまな欠けがあふれようとも、そこに「神の家」が建てられているのだ。</p>
<p>25日 (月) I テモテ 4章</p>	<p>「神がお造りになったものはすべて良いものであり、感謝して受けるならば、何一つ捨てるものはないからです。神の言葉と祈りによって聖なるものとされるのです」(4-5節)。「神の言葉と祈りによって…」が肝要だと思う。どうしても「自分のものさし」で「良し悪し」を見定め、「これは必要ない」と横を向いてしまいうわたしの心が正されていかないと、感謝は生まれない。</p>
<p>26日 (火) I テモテ 5章</p>	<p>「老人を叱ってはなりません。むしろ、自分の父親と思って諭しなさい。若い男は兄弟と思い、年老いた婦人は母親と思ひ、若い女性には常に清らかな心で姉妹と思って諭しなさい」(1-2節)。教会には、実に多様な年齢と背景の人びとが「神の家族」として招かれている。その交わりの真ん中にいつも主イエスの愛を覚えて、互いに関わることができるように。</p>
<p>27日 (水) I テモテ 6章</p>	<p>「この世で富んでいる人々に命じなさい。高慢にならず、不確かな富に望みを置くのではなく、わたしたちにすべてのものを豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置くように」(17節)。世界的に見れば日本の多くは「富んでいる者」ではないか。その私たちは「何に望みを置いているのか」が厳しく問われている。今日まず自分の心の向きを正されて始めたい。</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2025.8.24~8.31

<p>28日 (木)</p> <p>Ⅱ テモテ 1章</p>	<p>「神は、おくびょうの霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊をわたしたちにくださったのです」(7節)。「わたしはあなたの涙を忘れられない」と語りながら愛するテモテに手紙を書き始めるパウロ。若くして教会のリーダーとなり、いろいろな失敗を通して心に傷を負っているテモテに「大丈夫！ 神から与えられている賜物を信頼して！」と励ますパウロの愛が見えてくる。</p>
<p>29日 (金)</p> <p>Ⅱ テモテ 2章</p>	<p>「しかし、神が据えられた堅固な基礎は揺るぎません」(19節)、「清い心で主を呼び求める人々と共に、正義と信仰と愛と平和を追い求めなさい」(22節)。教会を建てる堅固な基礎そのものが揺らぐことはない。その基礎の上に立てられる私たちの信仰が問われている。「何を追い求めるのか」。自分の名がなることか。それとも神の御名、御国、御心がなることか。</p>
<p>30日 (土)</p> <p>Ⅱ テモテ 3章</p>	<p>「悪人や詐欺師は、惑わし惑わされながら、ますます悪くなっていきます。だがあなたは、自分が学んで確信したことから離れてはなりません」(13-14節)。他人を惑わす者は他人に惑わされる。求めているものが不確かな富だから。聖書は人間が創世記の最初から勘違いを重ねてきた歴史を記す。聖書が指し示す「確かなもの」を求めることができるように。</p>
<p>31日 (日)</p> <p>Ⅱ テモテ 4章</p>	<p>「今や、義の栄冠を受けるばかりです。正しい審判者である主が、かの日にそれをわたしに授けてくださるのです。…わたしだけでなく、主が来られるのをひたすら待ち望む人には、だれにでも授けてくださいます」(8節)。わたしたちがパウロのように宣教に尽くすことは難しい。それでも主イエスを信頼して待ち望めば義の栄冠をいただけるという励ましと希望。</p>